

## 積雪に対する農作物等の技術対策について

平成 31 年(2019 年) 4 月 10 日  
上伊那農業改良普及センター

### ハウス共通

- (1) 耐雪力が劣るハウス等では、積雪の状況によって中柱等の補強対策を実施する。
- (2) 暖房設備が設置してあるハウス等では、内張カーテン等を開けて融雪を促す。
- (3) 融雪処理後に滞水しやすい畑やハウス回り等では、水路や排水溝等を確保し、速やかに雪解け水の排水を促す。
- (4) 加温機やトンネル等により、引き続き保温、加温を行ってハウス内の作物への凍害を回避する。

### 麦類

- (1) 融雪による湿害を回避するため、排水対策を行う。
- (2) 4 月中下旬の止葉展開期が追肥適期であるので遅れないように行う。
- (3) 茎折れの状況を確認し、茎数の著しい減少が確認された場合、追肥量を削減する。

### 野菜

#### (1) 育苗中の野菜

ア 育苗中のハウスで加温機が稼働できる場合は、加温を行ってハウスに積もった雪を融かすようにするとともに、凍霜害を回避する。加温できない場合は、不織布や保温マット等により保温に努める。

#### (2) ブロッコリー等

ア 定植後数日程度の株で、外葉枯死が半分以上の場合には植え直す。被害の軽度の場合は、新葉の伸長程度を見て、追肥等の管理を早めに行い生育回復を図る。

イ 保温資材の被覆によりできるだけ保温に努め、活着を促す。

#### (3) その他

ア 小トンネルが変形または倒壊した場合は、部位の資材を撤去し、再度トンネルをかけ直すか不織布等でベタがけし保温に努める。

イ 融雪によりほ場が滞水している場合は、排水対策に努める。

ウ 今後の気温上昇にともなって病害が発生しやすい条件になった場合は、ベタがけ除去時に薬剤散布を行い、病害予防に努める。